

埼玉親善大使レポート

Noviembre de 2016

加藤 梨乃

11月に入りました。渡航三ヶ月目に入り、すっかりメキシコでの生活に慣れ、CEPEの語学学校での生活以外の課外活動に足を踏み出す日墨生が増えてきていることがこの三ヶ月間での大きな変化だと感じています。そこで今回のレポートでは日墨生がどのような課外活動をしているのかをメインに、そして11月の大きなイベントである死者の日についてもご紹介したいと思います。

課外活動について

CEPEのクラスのある一定以上のスペイン語力に到達すると、CEPEを出てUNAMの授業を聴講しに行ったり、またメキシコシティを出て別の場所で自分の研究に時間を投じたり、さらにインターンシップを探しそこでさらにスペイン語を磨いたりすることが可能になります。今回はそのような関係でCEPEを離れる日墨生も少なくなく、CEPE内が来学期から少し寂しくなりそうです。CEPEで勉強を続ける日墨生の中でも、UNAMの中にある音楽団に入団し演奏会に参加させてもらう学生、また今年は日墨協会創立60周年記念の大きなイベント（日本祭り）がメキシコシティであり、そのボランティアとしてお手伝いをさせていただくなど様々な形でメキシコ人と関わる環境を皆自らが作っていることを印象に受けます。実際に私もその日本祭りにボランティアとして参加させていただきましたが、来場者が5万人とメキシコ内で日本文化がいかに受け入れられているのかを身をもって感じられて光栄でした。

11月1日、2日 死者の日のイベント

11月1日と2日はメキシコ全土で死者の日という伝統的なイベントが開催され

ました。これは日本でいうお盆なのですが、メキシコのお盆は大変陽気で死者の崇め方も全く異なります。町中に可愛らしく色とりどりにペイントされた頭蓋骨の置物がたくさん飾られ、男女ともに死者に真似て顔をペイントします。お墓の前にはたくさんの花はもちろんのこと、陽気な歌で死者を「楽しませよう」と楽しく歌っているメキシコ人の姿が多く見受けられました。最初は正直死者のために「悲しむ」日本文化を長年見てきた私にとって受け入れがたいものでしたが、一緒になって死者の日を楽しむことで、死者を楽しませるといふ新しい価値観を肯定的に見られるようになりました。陽気で明るいというイメージのメキシコ、このイベントを通し本当にその通りだと大変良い意味で実感しております。

